



新潟大学医学部医学科

〒951-8510

新潟県新潟市中央区旭町通一番町757

TEL 025-227-2015

URL <https://www.med.niigata-u.ac.jp/>

NIIGATA
UNIVERSITY FACULTY
OF MEDICINE

新潟から始まる
キャンパスライフ
医学への道



2027/2028
新潟大学
医学部医学科
案内



NIIGATA UNIVERSITY FACULTY OF MEDICINE



新潟大学旭町キャンパス
中央の高い建物が医歯学総合病院の病棟、その奥が医学科。
手前のヘリポートのある建物が外来診療棟。

【表紙の写真について】

— 新潟大学構内で育つヒポクラテスの木 —

医聖ヒポクラテスとその下で弟子達に医の教えを説いたとされる木の実から発芽したもので、現在、海を越え、この新潟の地で大きく育っています。

医学を通して人類の幸福に貢献する



新潟大学医学部長
医学科長

佐藤 昇

医学科志望の皆さん、「新潟大学医学部医学科案内」をご覧くださいありがとうございます。

新潟大学医学部医学科は、教育理念である「医学を通して人類の幸福に貢献する」に基づいて、医師、医学研究者の育成に努めており、入学者に以下の能力を求めています。

- 高等学校卒業レベルの基礎学力を十分に有する
- 医学を学ぶ上で重要な科目への高い理解力と応用力を有する
- 良き医療人・医学者になるための強い学習意欲と科学的探求心を有する
- コミュニケーション能力に優れ、協調性に富み、豊かな教養と人間性、社会に貢献するために必要な倫理観を有する
- 地域社会への関心をもち、グローバルな視点で物事を考え、自身を省察し、主体的に行動できる

また上記の教育理念を達成するために、医学科では卒業時に獲得すべき能力として、(1)コミュニケーション、(2)医学の専門的知識、(3)倫理観と人間性、(4)診療の実践、(5)保健・医療・福祉への貢献、(6)地域医療と国際性、(7)リサーチマインド、(8)自己研鑽・生涯学習、の8つの学修成果を設定しています。これらを獲得するために、共通教育科目と専門教育科目を体系的に編成しており、能動的学修(アクティブラーニング)の機会を全学年で設けています。また先端医学、社

会的要請、国際基準に対応する教育課程を実施しています。

本学医学科は、1910年(明治43年)官立新潟医学専門学校として創立されたのが母体となっています。当時の理念は「医師の養成は、専門学校を以て満足すべきにあらず」であり、その精神は現在にも受け継がれています。カリキュラムでは長期間医学研究に従事する医学研究実習が設けられています。また専門診療科の実習に加えて、地域医療実習や総合診療の実習など患者さんを総合的に診る実習も用意されています。同時に国際性を高めるために、欧米はもちろん、インドネシア、タイ、スリランカ、マレーシアなどアジアの国々との医学・医療交流も活発に行っています。さらに欧米やアジアでの医学研究実習、英国等における臨床実習などの機会や、これらの活動に重要な医学英語プログラムも用意しています。

本学は、2013年(平成25年)に日本で最初に医学教育分野別評価トライアルを受審し、2017年(平成29年)に正式認定され、2022年(令和4年)には2回目の医学教育分野別評価の認定をされました。本学の医学教育が国際水準を満たした質の高いものであることが認証され、これにより米国で医師として活動するための資格試験の受験資格を得ることができます。

本学で学ぶことで将来は、臨床医、研究医、医療行政官など様々な分野に進むことができます。また、地域から世界各国まで幅広く活躍するフィールドを求めることができます。

信濃川と阿賀野川が造る自然豊かで実り多い越後平野に位置する新潟は、日米修好通商条約により開港した5港の一つを有し、古くより海外との交流が行われてきた歴史を持ちます。四季の自然が豊かで、食べ物もお酒も美味しいところです。新潟大学医学部医学科の恵まれた環境で、最先端の医学を学び、充実した学生生活を送りながら、医学を通して社会に貢献できるように切磋琢磨していただきたいと思ひます。

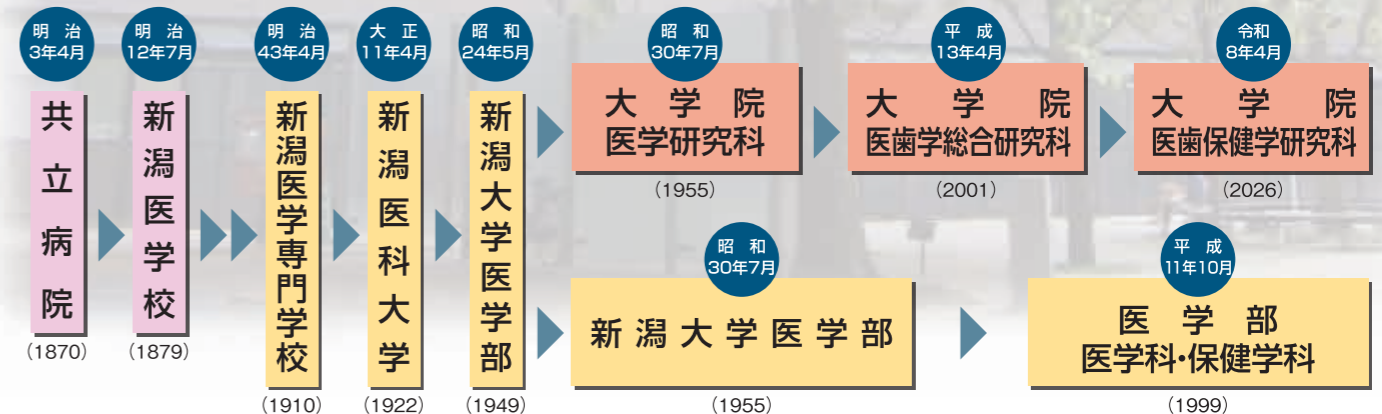


新潟医学専門学校当時(大正時代)



現在の医学部医学科

医学部の歴史



医学への理解と自らの夢を大きく育む新しいカリキュラム

新潟大学医学部医学科は、国際基準に準拠した先端的教育カリキュラムを実施しています。

医学部医学科の教育目標

1. 豊かな人間性と高い倫理性を備え、全人的医療に貢献できる人材の育成
2. 高度の専門性を持つ医療チームの一員として貢献できる人材の育成
3. 広い視野と高い向学心を有する医学研究者・教育者となり得る人材の育成
4. 保健、医療、福祉、厚生行政に貢献できる人材の育成
5. 地域の医療に貢献するとともに、国際的に活躍できる人材の育成
6. 探求心、研究心、自ら学ぶ態度を生涯持ちつづける人材の育成

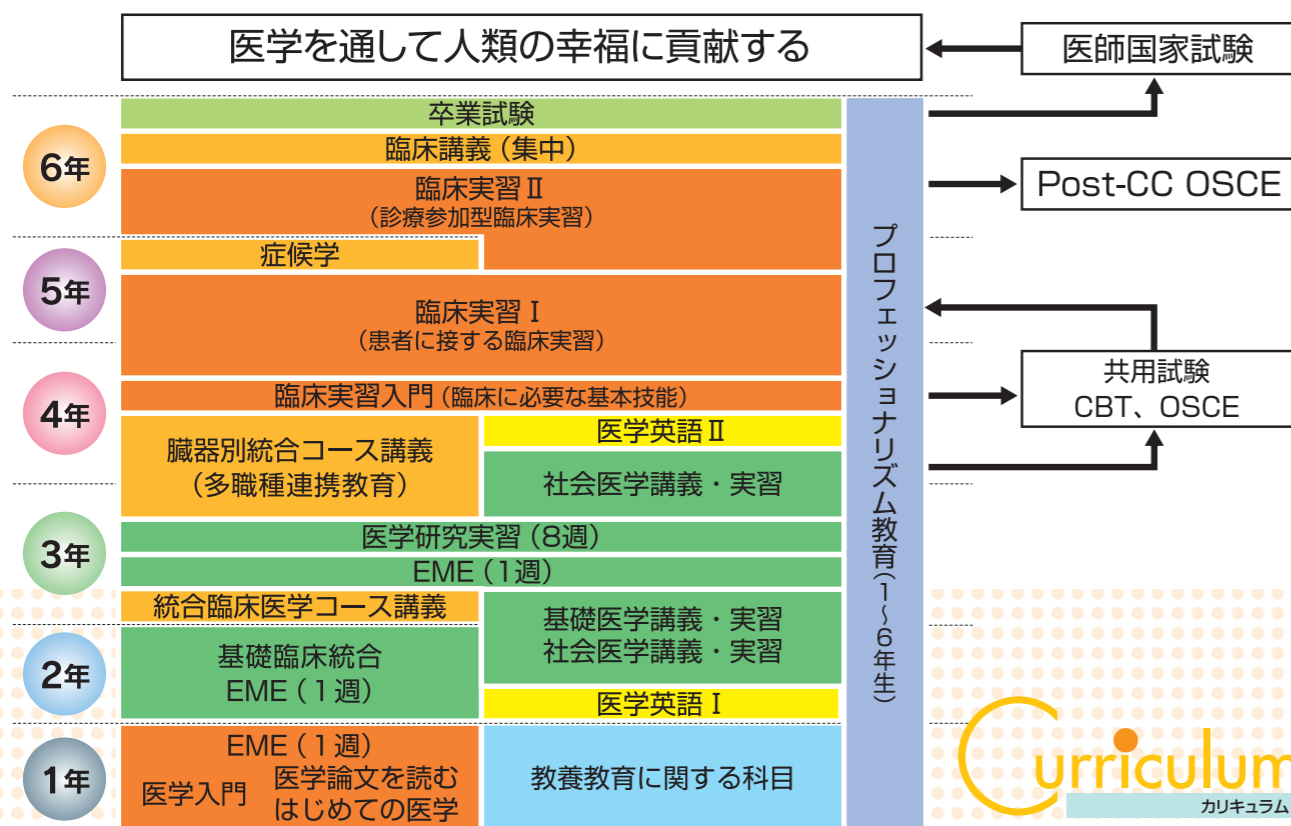


アクティブ・ラーニング(1年生)



臨床実習に臨む学生に白衣を授与する白衣式(4年生)

新潟大学医学部医学科 新カリキュラムの骨子



[用語]・EME(Early Medical Exposure):早期医療体験実習 ・CBT(Computer Based Testing):コンピューター試験
 ・OSCE(Objective Structured Clinical Examination):客観的臨床能力試験 ・Post-CC OSCE(Post-Clinical Clerkship OSCE):診療参加型臨床実習後 OSCE

新潟大学医学部医学科のアウトカム

医学科が掲げるアウトカムは次のようなものです。卒業時に獲得している能力を示しました。

I コミュニケーション

卒業生は：
患者・家族及び医療従事者間で適切なコミュニケーションをとることができる。

1. 患者・家族、医師及び他医療職種間と良好な関係を形成し、正確な情報の収集・伝達ができる。
2. 患者・家族に傾聴、共感、支持的態度を示し、適切な診療ができる。
3. 英語を用いて患者と基本的なコミュニケーションをとることができる。

II 医学の専門的な知識

卒業生は：
以下の医学に関する知識を有し実践に応用できる。

1. 各臓器の構造と機能
2. 心理・行動
3. 病態生理
4. 診断と治療
5. 疫学
6. 医薬品と薬理作用
7. 医療機器
8. 医療行政(予防/保健/福祉/医療)
9. 医療経済

III 倫理観と人間性

卒業生は：
患者・利用者の価値観や背景を理解し、個別性を尊重できる。プロフェッショナルにふさわしい倫理観をもち、礼節ある態度を示すことができる。

1. 法的責任・規則を遵守できる。
2. 患者中心の視点をもち、利他的、共感的に対応できる。
3. 多様な価値観や文化的背景を理解し患者・利用者の個別性に配慮できる。
4. 患者・利用者に対して正直、誠実であり、礼儀正しく振舞うことができる。
5. 研究・医療倫理、医療安全、守秘義務、説明責任を理解し実践できる。

IV 診療の実践

卒業生は：
基本的な診療を指導医の監督下で実践できる。

1. 基本的診療と手技ができる。
2. 診断と治療に必要な検査を選択し、データを解釈できる。
3. 適切な診断ができる。
4. 適切な治療計画が立てられる。
5. 診療記録を適切に記載し、プレゼンテーションできる。
6. チーム医療の重要性を理解し、安全な医療を実践できる。

V 保健・医療・福祉への貢献

卒業生は：
保健・医療・福祉に関する制度や業務を理解し、その改善に貢献できる。

1. 疾病の予防に貢献できる。
2. 患者への健康教育を実践できる。
3. 地域の保健指導を実践できる。
4. 検診、スクリーニングの重要性を理解し実践ができる。
5. 厚生・行政の概要を理解し役割を果たすことができる。
6. 社会福祉、保険制度を理解し実践できる。

VI 地域医療と国際性

卒業生は：
国際的な視野をもちつつ、地域の実情に合った医療を実践できる。

1. 地域の実情(伝統や風習)を踏まえた地域医療を実践できる。
2. 語学に堪能で国際的な視野をもって行動できる。
3. 国際保健に関心をよせ情報収集し、課題解決に取り組める。
4. 海外の学生と積極的に交流できる。

VII リサーチマインド

卒業生は：
基礎・臨床研究に興味をもち、自ら問題を発見し、論理的思考で問題解決をはかることができる。

1. 基礎・臨床研究に興味をもち、研究に取り組むことができる。
2. 自ら未知・未解決な問題を発見し、論理的思考により研究を推進し、問題解決できる。
3. 研究についてプレゼンテーションができ、新しい知見を発信できる。

VIII 自己研鑽・生涯学習

卒業生は：
生涯にわたり自ら学ぶ態度をもち、自己研鑽を続けることができる。

1. 自己主導型学習により課題を設定し、その解決のために正しく情報を検索し、課題解決できる。
2. 自己評価と振り返りを通して生涯学習を継続できる。
3. 現場での実践を通して自己の向上を図ることができる。
4. 探求心、向学心、向上心をもち続けられる。

1年生のカリキュラム

1年生では、外国語、自然科学、人文社会科学などの教養教育に関する科目を学びます。これらの授業は五十嵐キャンパスにおいて、他の学部との学生と一緒に行われます。医学科の必修科目としては「医学序説」で医学科の教授が医学に関するいろいろな話題について講義し、「はじめての医学」では生化学の基礎を学びます。

8月には「早期医学体験実習」で大学病院や地域医療機関で医師という職業の理解、多職種連携、コミュニケーションを学びます。オリエンテーションでは医療人類学的手法での場の観察方法や医療安全、感染管理の基礎について学び、最終日にはそれぞれの経験をグループワークで共有します。

10月からは週1回、旭町キャンパスで「医学入門」が始まります。プロフェッショナルリズムを身につけるため、コミュニケーション、医療倫理などを仲間と議論しながら学んでいきます。患者さんの講義、他の専門職種の方によりアクティブラーニングも実施します。

この1年間は、それまでの与えられた内容を学ぶ受験勉強から自律的に学ぶ、仲間と協同学習するという学び方の転換の時期です。クラブ活動やサークル活動、興味があれば研究室での研究を開始するなど、自らの興味を深掘りし、豊かな人間性を養ってほしいと思います。



早期医学体験実習 (early medical exposure)



医学入門

2年生のカリキュラム

2年生になると、いよいよ本格的に医学の専門科目がはじまります。この学年では「解剖学」、「生理学」、「生化学」を中心とする医学の基本となる基礎医学を学びます。これらの科目では、構造、機能、物質、遺伝子などさまざまな視点からわたしたちの「からだ」を学んでいきます。医師に必要な医学の基礎となる知識を修得する重要なカリキュラムです。

医師になるには医学の知識だけでは足りません。「倫理観と人間性」ではコミュニケーション、行動科学などを学び、「基礎臨床統合」では、基礎医学が臨床医学とどう結びついているのか臨床医の先生の講義で体感します。「早期地域医療体験実習」では、地域の様々な医療ニーズや多職種について実習します。高齢者施設、医療的ケア児の施設、特別支援学校、障がい者就労支援施設などで、障害や疾患と共に、地域で生活をするとはどういうことなのかを学びます。



生理学実習



「人体の構造と機能」組織学の顕微鏡実習

学生からの一言

医学科1・2年生の勉強と生活について

小林 優斗



1年生では、主に一般教養科目を中心に学びます。英語や第二外国語、体育、自然科学系の基礎科目など幅広い授業があり、高校までとは異なる大学らしい学びを経験できます。高校の授業と比べると、自分で時間割を組み立てたり、空き時間を自由に使えたりするため、最初は新鮮に感じる人も多いと思います。授業によってはグループワークや発表の機会もあり、自然と周囲の人と話すきっかけが増えるため、入学当初でも比較的友人を作りやすい環境だと感じました。また、1年生は比較的時間に余裕があるため、勉強以外のことにも挑戦しやすい時期です。旅行やアルバイト、趣味などに時間を使えるだけでなく、新しいことにチャレンジしやすい学年でもあります。私の周りではほとんどの人が1年生の間に自動車学校に通って免許を取っていました。学年が上がるにつれて授業や実習が増え、自由な時間は少なくなっていくため、1年生のうちにさまざまな経験しておくことはとても大切だと思います。実際多くの先輩方から「1年生のうちに遊んでおいた方がいいよ」と言われ、学年が上がった今、私自身もそれを実感しています。

2年生になると、いよいよ医学専門科目が本格的に

始まり、勉強量が大幅に増えます。覚える内容も非常に多くなり、専門用語も急激に増えるため、授業を聞くだけでは理解が追いつかないことも少なくありません。そのため、予習や復習を習慣化することがとても重要になります。私も最初の頃は授業を聞くだけで満足してしまい、しっかりと理解できていないままテスト前に焦って勉強するような生活をしていました。1年生の頃と同じ感覚だと、試験前はかなり苦労することもあると思います。先輩方でも「2年生が一番大変だった」と話す人は多く、勉強中心の生活になる人も少なくありません。特に実習系の授業は時間も長く、体力的にも負担が大きいです。長時間集中し続けなければならない日もあり、実習後に疲れ切った状態で試験勉強を進めるのはかなり大変でした。その一方で、実際に人体や標本を扱いながら学ぶことで、教科書だけでは理解しにくかった構造や特徴を深く学ぶことができ、医学を学んでいる実感を強く持てる学年でもありました。友人同士で教え合いながら勉強する機会も増え、より絆が深まったり、協力しながら乗り越えていくことの大切さを感じたりすることも多かったです。

大学生活は忙しい中でも楽しいことがたくさんあり、自分の過ごし方次第で充実度が大きく変わります。勉強との両立に苦労する場面もありますが、その分得られる経験や達成感も非常に大きいです。受験勉強は大変だと思いますが、その先には新しい出会いや多くの学びが待っています。必ず充実した生活になると思いますので、ぜひ大学生活を楽しみに頑張ってください。

新潟大学の医学部の特徴

新潟大学は医学研究が非常に盛んな大学です。つまり最先端の医学のワクワクする話を授業で聞くことができます。新しい知見がどう作られてきたのか、またどうやっていくかを学べば、膨大な医学の勉強が本当に楽しくなります。楽しそうに研究している多くの先生と早くから接することができることは皆さんの財産になるでしょう。

そして、新潟大学は海外志向の強い大学です。本格的な英会話のコースへ昼休みに無料で参加できます。そうして学んだ英語を使う場として夏休みに10日程度の交換留学や、8週間の研究留学、

4週間の臨床留学など様々なプログラムが用意されています。USMLEというアメリカの医師国家試験のstep1にはここ数年で19名が合格しています。自主的な勉強サークルがあり、仲間と共に海外を目指せます。

もちろん、新潟大学は地域医療も大事にしています。医療と地域社会とは切り離せません。地域と医療をまるっと学ぶためのプログラムが低学年からいくつも用意されています。将来どこの地域に行っても、そこで何が課題なのかを抽出する能力がとても大事なのです。その能力を鍛えるのに、新潟という地域；城下

町あり、農村あり、工業地帯あり、過疎地域も都市もある、多様な場がとても大事です。

そして医師としてのプロフェッショナルリズム醸成のため、コミュニケーションの演習に非常に力を入れています。知識はAIが提供してくれても、それを説明する、患者さんに寄り添う、多職種で相談するコミュニケーション能力が医師にはますます求められます。時代の変化に対応できる医師養成を新潟大学はおこなっています。

3年生のカリキュラム

3年生の前期は、臨床基礎医学として、薬理学、病理学、免疫学、ウイルス学などを中心に学びます。2年生で学んだ「正常なからだ」についての知識を基盤として、これから学ぶ臨床医学の基礎として、病気のメカニズム、治療のメカニズムを学んでいきます。地球で暮らす我々は気候変動などの「環境」にも左右され、「環境医学」も学びます。このような臨床基礎医学と臨床医学を統合できる



心臓聴診のシミュレーション実習

医学研究実習

ように、全国の大学の中でも早い時期からシミュレータを活用した臨床技能教育を行っています。

1年生、2年生に引き続き、コミュニケーション、医療倫理、行動科学などプロフェッショナルリズムにつながる科目も学びますし、医学英語も継続して学びます。また訪問看護ステーション実習、大学病院看護実習で患者さんの思いに触れる、多職種を理解することも学びます。

3年生の後期からは、「臓器別統合コース」に入ります。これは、2年生から3年生前期までに学んできた基礎医学の知識を生かして、具体的な病気について臓器別に順々に学修していくコースです。それぞれの臓器の構造と機能を復習し、その臓器で起こる病気の病態、診断、治療について統合的に学びます。このコースでは、主として小グループ学習形式が採用され、問題基盤型学習(PBL)を行います。

3年生の後期のメインイベントの一つは、「医学研究実習」です。ここでは学生が自主的に選択した基礎医学系あるいは臨床医学系の研究室で、それぞれ個別に2か月間実習を行い、最終日に自分の研究成果をポスターを用いて発表します。普段は経験できない実験などの体験を通じて、自ら問いを立てること、それを解決する方法を探すことなど研究マインドを養います。臨床医になるにも研究マインドは重要で、新潟大学はこの実習をとっても大事にしています。

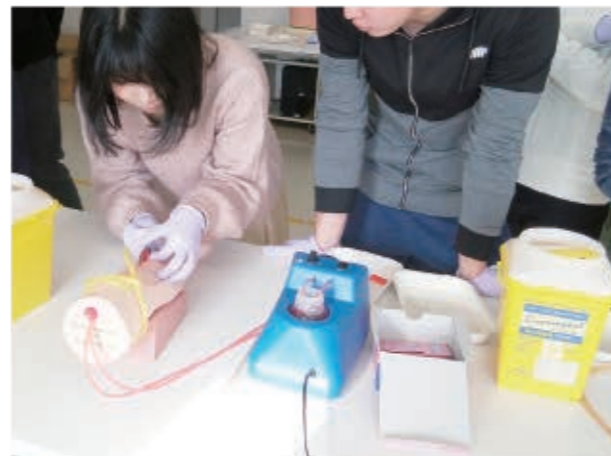


医学研究実習の成果を学会形式で全員が発表

4年生のカリキュラム

4年生の前期も「臓器別統合コース」が続きます。これで一通りの病気の知識を身につけたこととなります。また、この時期に並行して「公衆衛生学」を履修します。

4年生になると、「臨床実習入門」が始まります。ここでは、患者さんに接するための実技、すなわち臨床技能と態度をさまざまな方法で学修します。その修得度を評価する目的で「客観的臨床能力試験(OSCE)」を受験します。また、臨床の現場に出るための知識が備わっているかどうかを評価するために「コンピュータ医学試験(CBT)」を受験します。これらの試験に合格すると白衣式で修了証書を授与されて、臨床実習への参加が許可され、「臨床実習I」が始まります。



4年次採血実習

学生からの一言

医学科での学びと学生生活

名和 稜子



皆さん、初めまして。医学科案内をお手に取っていただき、ありがとうございます。私は現在、新潟大学医学部医学科5年生です。皆さんが医学科に入学した後の姿を少しでもイメージできるように、私の経験を交えながら3・4年次の学生生活についてお話ししたいと思います。

3年生では基礎医学を2年次よりさらに深く学び、後期には2か月間の医学研究実習を行います。そして、いよいよ臨床医学の学習が始まります。4年生では夏頃まで臨床医学を学び、その後、CBT、OSCEという試験を受けます。これらに合格すると白衣授与式を迎え、臨床実習が始まります。

私が印象に残っているのは医学研究実習です。研究テーマは学生一人一人異なり、自分の興味のある分野を深く学ぶことができます。私は当時、臨床医学への憧れが強く、病理学の先生から「病理診断によって、悪性腫瘍かどうかの最終判断を行う」というお話を伺い、大きな魅力を感じました。それをきっかけに、スイスのチューリッヒ大学病院で腎細胞癌に関する研究に取り組みました。新潟大学には研究留学をはじめとした多様な挑戦の機会があり、学生の「やってみよう」という思いを叶えてくれます。自分の興味や可能性を広げられる環境が整っていることは、新潟大学医学部の大きな魅力の一つだと思います。

臨床医学の学習では、これまで学んできた人体の仕組みを土台に、さまざまな病気や治療について学びま

す。各診療科の先生方から直接講義を受けることができ、日々新しい知識に触れます。難しい内容も多いですが、医師という目標に一步步近づいていることを実感できます。また、実際の症例を通して学ぶ機会も増え、教科書で学んだ知識と臨床現場が結び付いたときには大きな充実感を感じます。

CBTとOSCEは、皆さんが初めて聞く言葉かもしれませんが、これらは臨床実習に進むための大切な試験です。CBTでは知識が、OSCEでは診察や医療面接などの実技が評価されます。私自身も友人たちと夜遅くまで勉強したり、OSCE対策のために学年の女子数人で友達の家に集まり、患者役と医師役に分かれて練習したりしながら試験に臨みました。当時は大変でしたが、仲間と支え合いながら乗り越えた時間は今では大切な思い出です。試験に合格し、初めて白衣を着たときには、医療に携わる者としての責任と自覚を強く感じました。これまでの努力が形になった瞬間でもあり、非常に感慨深かったことを覚えています。

ここまでお読みいただいて、医学部は勉強が大変というイメージを持たれるかもしれませんが、しかし実際には、部活動やアルバイト、趣味など、それぞれが自分らしい学生生活を送っています。私自身も勉強だけでなく、友人との時間や課外活動を大切にしながら学生生活を送っています。また、医学科では全員が同じ講義を受け、試験勉強でも協力しながら学ぶため、自然と強い絆が生まれます。困難なことがあっても仲間と支え合いながら乗り越えていける環境があり、一生の財産となる出会いがあります。

ぜひ新潟大学医学部医学科で、充実した学生生活を送りながら医学を学んでみませんか。皆さんとともに学び、将来の新潟の医療を支える仲間になれる日を楽しみにしています。

CBTとは・・・ (コンピュータ医学試験)

実際の医療現場で患者さんに接する(臨床実習)前に、基礎医学と臨床医学の基本的知識を修得しているかどうかを評価する試験です。コンピュータを用いて全国で統一された試験を行います。CBTとOSCEの両方に合格すると、臨床実習に進むことが許可されます。

OSCEとは・・・ (客観的臨床能力試験)

医学生が患者さんに接する前に、患者さんと接する態度と診察時の基本的な知識・技能を身につけたかどうかを評価する試験を客観的臨床能力試験(OSCE)といいます。これにより医師と患者さんとの良好な人間関係を構築し、全人的医療を行える良い医師となる学生にふさわしいかどうか評価します。外部の医学部教員が新潟大学の教員と一緒に厳正な評価を行います。

5年生と6年生のカリキュラム

科学性と人間性を兼ね備えた医師をめざして



診療参加型臨床実習

5年生でも引き続き「臨床実習Ⅰ」を行います。1週間～3週間ずつ、大学病院の各科を10人前後のグループで順にまわります。その中で、患者さんに接したり、講義や小グループ学習に参加することにより各科のさらに深い知識を修得します。

5年生の後期から始まる「臨床実習Ⅱ」はさらに本格的な実習になります。診療チームの一員として参加する診療参加型臨床実習で、大学病院や関連病院での実習を4週間ずつ計24週行います。

その後、卒業試験があり、合格した者にのみ卒業資格、つまり医師国家試験の受験資格が与えられます。2月に2日間医師国家試験が行われます。卒業時に卒業試験のほかに臨床スキルを評価するために「診療参加型臨床実習後客観的臨床能力試験 (Post-CC OSCE)」を行っています。



外来での臨床実習



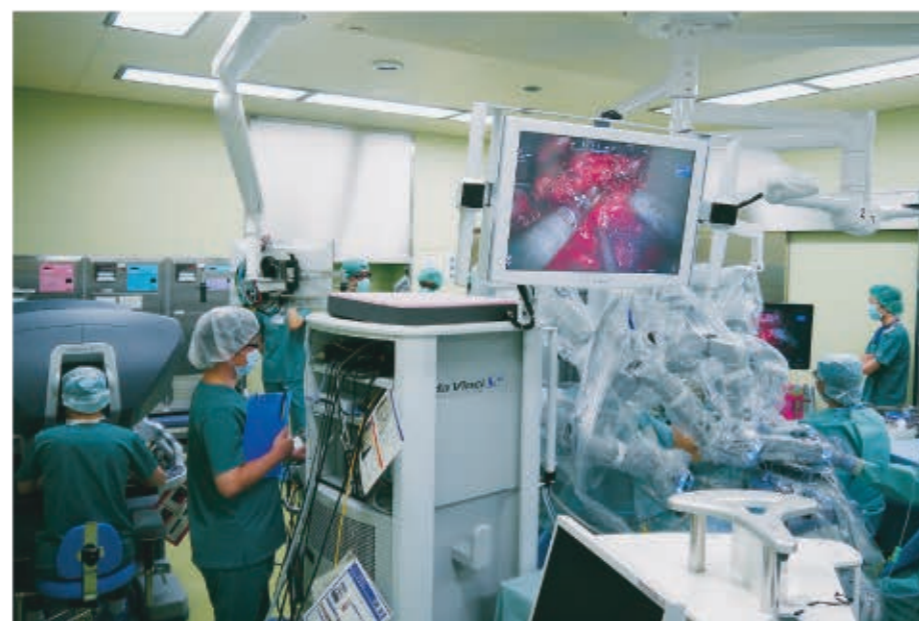
地域医療体験実習

Post-CC OSCE

6年次に診療参加型臨床実習を修了した後で、医学生として卒業時まで獲得すべき技能、態度、知識のうち主に技能と態度を確実に修得しているかどうかを評価する診療参加型臨床実習後客観的臨床能力試験のことです。全国で統一された試験問題と新潟大学独自に作成した試験問題の両方が出題されます。



万能の天才レオナルド・ダ・ヴィンチの名を冠した手術支援ロボット「ダヴィンチ」。新潟大学ではハイテク技術導入にも常に積極的に取り組んでいます。



学生からの一言

医学科
5、6年次について

川島 舜



みなさん、初めまして。医学科6年の川島舜と申します。ついこの間入学したと思っていたら、もう6年が過ぎようとしています。それだけ充実した日々だったということかもしれません。ここでは主に、医学科5、6年次の生活について紹介したいと思います。

医学科5年次では、「臨床実習Ⅰ」を行います。臨床実習Ⅰでは、約1年間で大学病院のほぼ全ての診療科を実習します。医学科6年次では、「臨床実習Ⅱ」を行います。5年次の「臨床実習Ⅰ」と異なる点として、自分の興味のある診療科をより自由に選択できること、また大学病院だけでなく新潟県内外の関連病院でも実習できることが挙げられます。さらに、5年次では見学が中心だった手技を、医師の指導のもと実際に経験したり、診療チームの一員として主体的に診療に参加したりすることで、より実践的に学ぶことができます。具体的には、回診、外来での問診・身体診察、カルテ記載、採血、縫合、手術助手などを経験します。

ここで、私が整形外科を実習した際の1日のスケジュールを紹介します。まず朝8時からカンファレンスに参加し、術後の患者さんや当日手術予定の患者さんについて検討を行います。その後、8時30分から昼頃まで外来診療を見学します。診療見学に加え、指導医のもとで問診や身体診察を担当することもあります。昼食後は手術見学を行います。症例によってはガウンを着て術野に入り、助手として術野確保や縫合な

どを行うこともあります。日によって多少異なりますが、17時頃に実習終了します。このように、実際の診療に近い形で実習を行うことで、多くの学びを得ることができます。

7月末までの実習を終えると、9月にPost-CC OSCE (実習後臨床能力試験)、10月に卒業試験、2月に医師国家試験を受験します。これらすべてに合格して、晴れて医師となります。

ここまで学業について紹介してきましたが、せっかくの大学生活ですので、勉強だけでなくプライベートも大切にしたいと思います。医学部のある旭町キャンパスには多くの部活動があり、たくさんの学生が活動しています。部活動を通して、同期だけでなく先輩・後輩や他学部の友人とも交流することができ、より充実した学生生活につながります。医学部生活は忙しい一方で、まとまった長期休暇もあります。旅行に出かける学生も多く、私自身も同期や部活の仲間と旅行を楽しみました。

また、新潟県といえば美味しい食べ物も魅力です。海の幸やラーメンなどの美味しいお店がたくさんあります。日本酒も有名ですので、適度に楽しむのも良いと思います。

もちろん、6年間の学生生活の中では、楽しいことばかりではなく、辛いことや悩むこともあると思います。新潟大学医学部医学科には、各学年2～3名の学生と教授1名で構成される「懇話会」があり、学生生活に関するさまざまな相談をすることができます。定期的に飲み会も開催されており、学年や部活を超えて交流を深めることもできます。

新潟大学医学部医学科での学生生活は、非常に濃密で充実したものです。ぜひ本学に入学し、素晴らしい学生生活を送っていただければと思います。

充実したサポート体制

新潟大学の入学者は県外出身者が7割です。慣れない土地での一人暮らしで初めは様々な不安もあることと思いますし、勉強につきますくこともあるかもしれません。でも心配しないでください。入学した皆さんを全力でサポートするために、様々な組織があります。まずは医学教育センターです。医学教育専門家の教員が学びについて全面的にサポートしています。そして、心の悩みについては医学教育センターの精神科専門医が対応しており、誰でも気軽に立ち寄りてもらえ

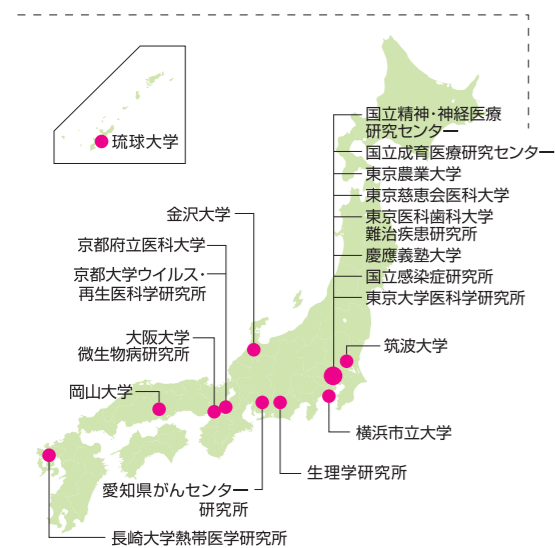
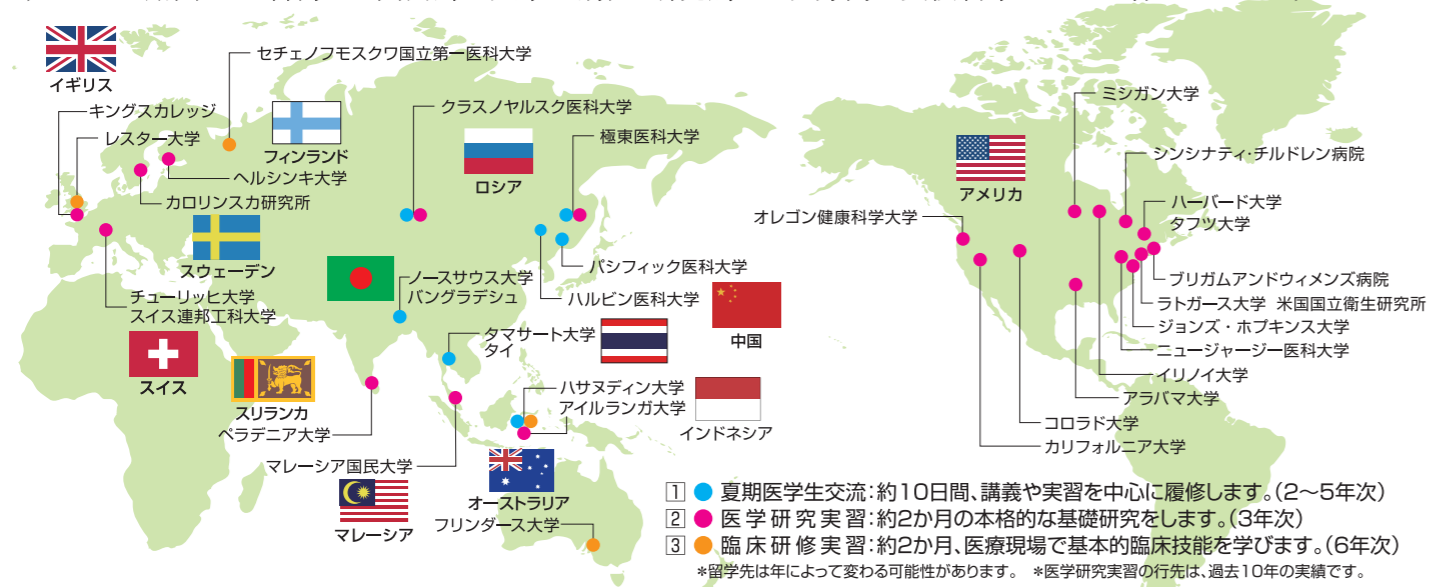
るようになっています。他に保健管理センターという部署でも様々な悩みをじっくり聞いてくれます。特徴的なのは懇話会というシステムです。1学年3～4人ずつ、6学年で20名強のグループが作られていて、担当教授とお食事会をしています。先輩学生からいろんな話が聞けたり、教授の先生ともじっくりお話しできます。部活動以外でもいろんな人間関係が作れるように、相談窓口があるようにして、皆さんの大学生活を支援しています。

学外交流

医学科では、世界各地の大学・研究施設と交流を深めています。

学生には、在学中に様々な留学の機会が提供されます。

アメリカやイギリス、スイス、スウェーデン、ロシアなどの欧米各国から、インドネシア、タイ、中国やマレーシアをはじめとするアジア諸国など、新潟から国内外の大学や病院、研究所との双方向の交換留学が盛んに行われています。



先輩からのコメント

私達は「医学研究実習」プログラムでフィンランドにあるヘルシンキ大学に派遣して頂き、約2ヶ月間にわたって貴重な経験を積むことができました。ヘルシンキ大学のHelsinki Institute of Life Science (HILIFE)内にあるNeuroscience Centerの研究室では、神経発生や脳腫瘍のハイレベルな研究が活発に行われていました。最初は研究テーマを理解することや実験を正確に行うことも困難でしたが、派遣前トレーニングで基礎的な実験技術を身につけてから渡欧したことや、メンターの先生方の温かい指導により徐々に慣れ滞在中は思う存分研究を楽しむことができました。HILIFEには多数のラボがあり、オープンラボシステムを採用し研究機器を共通利用しているため、他のラボのメンバーと話す機会もたくさんありました。多くの国から集まった研究者の方々が、英語を共通語としてコミュニケーションを取り合い、活動している姿からたくさん学びを得ることができました。休憩時間に様々な国籍の人たちと集まり、国や文化の壁を越えて親睦を深められたことも非常に貴重で、楽しい経験でした。夏のフィンランドは気候もよく、周辺の環境がとても美しく、サウナやサーモンを毎日心から楽しんでいる姿を見て、人生観が変わるほどの非常に貴重な滞在でした。

[根本映、島津花夏]



医学科の国際交流について興味のある方は、ぜひホームページをご覧ください。
<http://www.med.niigata-u.ac.jp/g-medex/>



さまざまな医学の道

新潟大学では高度先進医療や先端医学研究にとり組んでいます。

こうした環境の中で卒業後は臨床、研究、教育、行政とさまざまな医学の道に進むことができます。



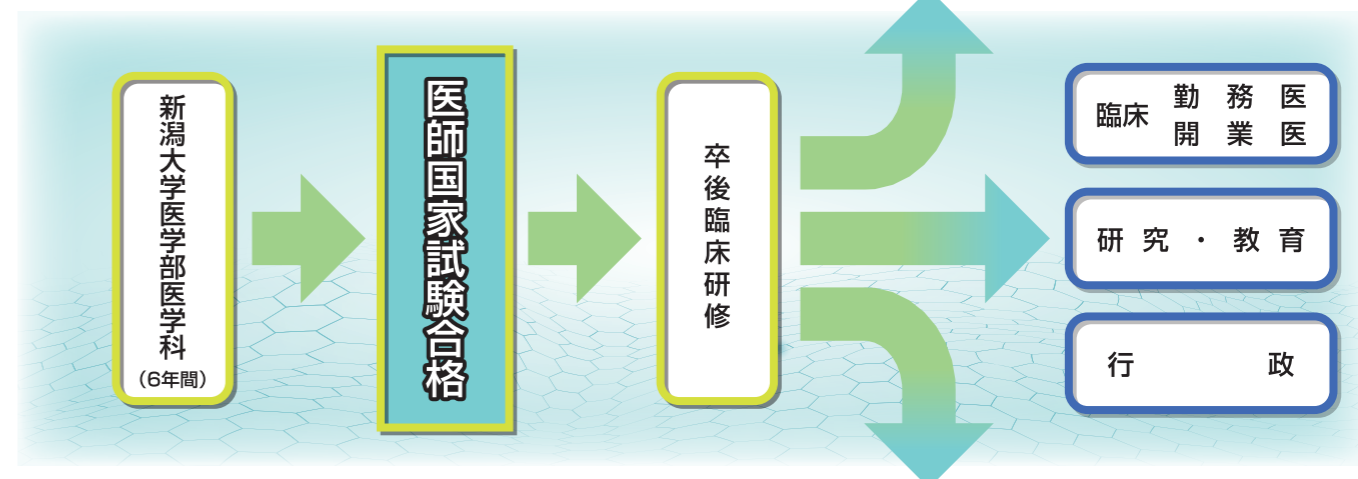
ドクターヘリ運航



消化器内視鏡処置

広がる先進医療

新潟大学医歯学総合病院



進む先端研究

新潟大学大学院医歯保健学研究科



医療の現場で今を生きる卒業生たち

困難な道の数だけ喜びや感動がある...

理想に向かって奮闘中の卒業生からのメッセージです。

医療の進歩に基礎医学の進歩はこ

岩間 厚志

東京大学医学研究所
幹細胞治療研究センター幹細胞分子医学分野 教授



1987年 新潟大学医学部卒業。
1989年 自治医科大学血液内科シニアレジデント
1992年 熊本大学医学部助手、造血幹細胞研究を開始。
1996年 ハーバード大学留学
1999年 筑波大学医学部免疫学教室講師
2002年 東京大学医学研究所幹細胞治療研究分野講師
2005年 千葉大学大学院医学研究院教授
2018年 東京大学医学研究所教授
専門は造血幹細胞・血液腫瘍の研究

学生時代、私はバレーボール部に所属し、多くの学生がそうであるように、部活動を中心とした生活を送っていました。当時のバレーボール部の顧問は、第2内科教授の荒川正昭先生で、大変学生の面倒見の良い先生でした。先輩方の多くが第2内科に入学されたこともあり、私自身も迷わず第2内科に入学しました。卒後1年間は大学病院で研修を行い、日々新しい学びに満ちた充実した時間を過ごしました。そのような中で、徐々に血液内科領域に興味を持つようになりました。1年目に担当した血液内科の患者さんは確か3人ほどだったと思いますが、悪性リンパ腫、骨髄異形成症候群、急性リンパ性白血病の患者さんを受け持った経験は、今でも強く記憶に残っています。

2年目には、地元に近い水戸済生会病院で研修を行いました。指導医の先生が血液内科医であったことから、多くの血液内科患者を担当する機会に恵まれました。そこで血液疾患とその治療にさらに強い関心を抱くようになり、自分の進むべき方向が次第に定まってきたように思います。私の現在の研究テーマである造血幹細胞は多分化能を有しますが、特定の分化の方向へ運命づけられる過程を「コミットメント(commitment)」と呼びます。振り返れば、私自身の興味や志向も、この時期に血液学へとコミットしたのだと思います。学生時代にはまったく予想もしていなかったことであり、人生はどこでどう転ぶかわからないものだと実感する大きな転換点でした。

3年目には、当時「血液学のメッカ」といわれていた自治医科大学血液内科に、新潟大学の先輩である小松則夫先生(その後順天堂大学血液内科教授)のご紹介で入学することになりました。血液学の臨床に励む一方で、研究も同時に行っている先生方が多くおられることが、次第に気になるようになりました。不思議なものでそうなる自分でもやってみたくなるものです。環境がいかに人に影響を与えるかの実例ですね。5年目頃からは、朝晩の

時間を使って研究を行うようになりました。そのような中、講師であられた須田年生先生が熊本大学医学部の基礎医学教授として転出されることとなり、「学位を取らせてあげるから来ないか」と声をかけていただきました。こうして私も熊本大学へ移り、基礎医学に専念することになります。その後、留学を経て、完全に基礎医学研究へコミットすることになりました。開業医の後継ぎとして期待していた親にとってはまさに青天の霹靂だったことでしょう。

かくして、気がつけば32年間にわたり基礎医学研究を続けてきました。研究テーマは一貫して造血幹細胞と造血腫瘍ですが、その過程には様々な紆余曲折があり、それぞれにささやかなドラマがあったように思います。紙面の都合でそれらをご紹介できないのは残念ですが。

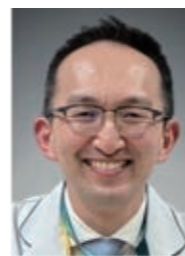
私も退官まであと2年となりましたが、幸いなことに科学に対する興味だけは今も変わりません。私は医学部や現在の医科学研究所のように、常に医学・診療に近い場所で研究を行ってきました。この間の疾患理解や治療薬・治療法の進歩には、本当に目を見張るものがあり、驚きの連続でした。同時に、それらには必ず科学的裏付けがあり、基礎研究から得られた発見が基盤となっていることを実感しています。自分自身の研究が将来どのように役立つのかを正確に予測することはできません。しかし、医学の領域には、まだ解明されていないことが数多く残されています。自分なりの医学への疑問を持ち、それを追究していく営みは、今でも大きなやりがいを感じる仕事です。

医療の進歩の背景には、常に基礎医学の進歩があります。臨床の現場で生じる疑問を科学によって解き明かし、その成果を再び患者さんに還元する。この循環こそが医学の発展を支えているのだと思います。みなさんもぜひ、自分なりの疑問を持ちながら、医療や医学に向き合ってください。

未来の医療を切り拓く外科医へ「アカデミックサージャン」を目指して

永橋 昌幸

名古屋大学大学院 医学系研究科 病態外科学講座 乳腺・内分泌外科学分野 教授



1996年新潟県立新津高等学校卒業、2002年新潟大学医学部卒業。
新潟大学消化器・一般外科で研鑽を積んだのち、
2009年より米国バージニア州立大学生化学教室で5年間、
がんにおける脂質メディエーターの研究に従事。
2015年より新潟大学にて乳腺・内分泌外科チームのチーフを担当。
2021年より兵庫医科大学乳腺・内分泌外科に勤務し、2026年より現職。

皆さん、こんにちは。皆さんは「アカデミックサージャン」という言葉を聞いたことがあるでしょうか。アカデミックサージャンとは、大学(アカデミア)で学術と臨床の両面に取り組む外科医のことです。私はこれまで、そのような外科医を目指して歩んできました。

では、なぜ外科医に学術が必要なのでしょう。私はがんを治療する外科医(腫瘍外科医)です。手術によって体内のがん細胞を完全に除去できれば、がんは根治します。しかし実際には、がん細胞が見た目以上に広がっていることもあり、手術後に残った細胞が再び増殖して再発し、救えない患者さんもいます。より多くの患者さんを救うためには、手術の工夫だけでなく、放射線治療や薬物療法を組み合わせた「集学的治療」が重要になります。

現在の手術は、世界中の外科医が積み重ねてきた試行錯誤の成果として成り立っています。その結果、世界標準の手術法が確立されてきました。しかし、その標準的な治療でも救えない患者さんがいるのも事実です。そうした患者さんを救うためには、新たな工夫や治療法の開発が必要です。ただし、思いつきで治療を変えることは許されません。新しい治療が、かえって患者さんに不利益をもたらす可能性があるからです。だからこそ、科学的根拠(サイエンス)に基づき、正しい手続きを踏んで治療を改良していく必要があります。サイエンスの理解なしに、新しい手術や治療法を生み出すことはできません。

これまで新しい治療を切り開いてきたのは、サイエンスに基づいて考え、実践してきた医師たちであり、その中心にいるのがアカデミックサージャンです。医学部では、人体や病気のしくみ、そして治療法について学びます。しかし、医学で解明されていることはまだ一部に過ぎず、未知の領域が多く残されています。まずは既存の知識をしっかり身につけ、その上で医師となった後に新しい知識を積み重ねていくことが、今は救えない患者さんを将来救うことにつながります。その役割を担う存在として、アカデミックサージャンはこれまでも、そしてこれからも求められています。

私は平成14年に新潟大学医学部を卒業後、新潟大学消化器・一般外科に入学し、医師としての基礎を学び、外科医として育てていただきました。現在は名古屋大学で、次世代のアカデミックサージャンを育てる取り組みを進めています。母校である新潟大学とも連携しながら、若い皆さんが新しいがん治療を切り開いていける環境を整えていきたいと考えています。医学を志す皆さんの中から、将来の外科学やがん治療を切り開くアカデミックサージャンが育つことを心から願っています。新潟大学医学部は長い伝統を持ち、外科学教室は多くの優れた外科医を輩出してきた日本有数の教室です。ぜひ皆さんが新潟大学で学び、その中から一人でも多く、アカデミックサージャンを目指す方が生まれることを期待しています。

医学部を目指すみなさんへ

小堺 聡

新潟大学医学部医学科卒業
新潟大学医歯学総合病院
初期研修医



みなさん初めまして。新潟大学医歯学総合病院で初期臨床研修をしております、小堺聡と申します。私は新潟大学医学部医学科を卒業後、そのまま新潟大学医歯学総合病院で2年間初期臨床研修というものをしています。初期臨床研修とは、医学科を卒業し、医師免許を取得した後に全ての医師が通らなければならない2年間の研修期間です。この期間は内科、外科、小児科をはじめ、さまざまな科をローテーションし、医師としての知識や技術を醸成する最初の期間です。

さて、みなさんはどのようなビジョンを思い描いて医学部医学科を目指されるのでしょうか。きっと医学部医学科へのイメージは十人十色でしょう。私は津南町という新潟県の端っこの端っこのまに田舎というイメージがピッタリ合うような場所の出身です。そのような地域で育ったため、高校生の頃から地域医療に関心を持っていました。

これからの地域医療で需要が高まるであろう「総合診療科」の医師になるべく医師を志しました。総合診療医になる、という気持ちは初志貫徹、医師として働き始めた今も変わりません。しかし、自分の地域医療や総合診療への見方は入学前とは少し変化しています。それは、6年間という長い学生生活と現在の初期臨床研修で様々な現場を経験し、多様な分野の先人から影響を受けたからです。今も自分の中の最適解を模索中です。みなさんも将来のことをたくさん悩んで迷っているところだと思います。医学部を卒業してからの進路なんて到底想像しえなさと感じてしまうかもしれません。しかし安心して下さい。大学はとても刺激的な場所です。長い学生生活の中できつと自分だけの道が見つかると思います。それは臨床か、はたまた研究の道か、もしかすると行政に携わったり、などなど未知数です。私もまだ歩き始めたばかりの身ですが、一つだけアドバイスさせていただくなら、自分の「好き」を追求してほしいと思います。せっかく辛く大変な受験勉強を乗り越えて入学するので、存分に自分の「好き」を追求した方が学生生活も実りあるものになるのではないのでしょうか。そして、もし新潟大学を選んでいただけるのなら、ほんの少しだけでも新潟の医療に向き合っていたいただくと嬉しく思います。なにはともあれ将来みなさんが医学の道で活躍されることを願っております。

医学部医学科の年間行事

- 3 MAR** 卒業式 (Graduation Ceremony)
- 4 APR** 令和8年度入学式 (令和8年度入学式) / 新入生研修 (New Student Training)
- 5 MAY** 解剖体慰霊祭 (Anatomical Memorial Service) / 医学大運動会 (Medical University Sports Meeting)
- 6 JUN** 白菊会総会 (Shirakiku Kai General Meeting)
- 8 AUG** 東日本医科学学生総合体育大会 (East Japan Medical Science Student General Sports Meeting)
- 11 NOV** 六送会 (Rokuseikai) / クラスマッチ (バレーボール) (Class Match (Volleyball)) / 医歯学祭 (Ishigakusai)
- 12 SEP** 白衣式 (White Coat Ceremony)

医学科学生のある1日

医師になるための勉強はもちろんですが、部活動やサークル活動に積極的に参加したり、アルバイトも頑張ったりして、充実した日々を送っています。

5年生
K君
の
ある
1日

Morning
♡ Q ▽



晴れた日の自転車は気持ちいい！(大学まで5分)

AM9:00
♡ Q ▽



今日は講義を受けたり、手技を学んだり、もりだくさん。

AM0:00
♡ Q ▽



就寝。明日も元気に頑張るぞ～。

AM11:00
♡ Q ▽

手術見学。担当症例はスライドにまとめて発表します！

Lunch
♡ Q ▽

友人と近くの美味しい定食屋へ！いったん帰宅して家で食べることも！

Night
♡ Q ▽



部員や同級生と飲み会へ！お家で料理をすることも！

PM3:00
♡ Q ▽



救急科でドクターヘリについて学ぶ！実物は一層かっこいい。

Evening
♡ Q ▽

実習が終わると部活へGo。楽しく練習頑張る！



興味あるものに熱中し、感動を共に味わう 仲間たちがいます。

好奇心を満たし、豊かな人間性を養う心の交流の機会がここにあります。
 新潟大学医学部では全部で35の運動部・文化部・同好会が活動しています。
 特に運動部は毎年、東日本医学学生総合体育大会（東医体）で他大学と総合優勝争いを演じています。
 文化部・同好会にもユニークなものが多いです。

- 弓道部
- ゴルフ部
- ワンダーフォーゲル部
- ラグビー部
- スキー部
- 男子バスケットボール部
- 女子バスケットボール部
- 男子バレーボール部
- 女子バレーボール部
- 水泳部
- 軟式野球部
- 準硬式野球部
- 剣道部
- バドミントン部
- 柔道部
- 陸上競技部
- 硬式テニス部
- 軟式テニス部
- 空手道部
- 卓球部
- サッカー部
- 美術部
- 写真部
- オーケストラ部
- コンピュータ部
- ESS
- 茶道部
- 俳句部
- 合唱部
- 軽音楽部(メディックス)
- ダンス部魂舞
- 学生会
- 相撲同好会
- フットサル同好会
- 文芸部



不安なく大学生活を送るためのQ&A

Q 新潟市って
どんなところですか？

A 新潟市は本州日本海側で唯一の政令指定都市（人口約75万人）で、旭町キャンパスがある中心部には、大型商業施設が建ち並ぶ一方、海、山、川の豊かな自然がすぐそばにある自然と都市が共存するまちです。東京まで新幹線で約2時間、高速道路や国際空港も整備されており、首都圏をはじめ全国各地へのアクセスも大変よいところです。また、美味しいご飯やお酒、日本海の海の幸が楽しめるのも大きな魅力のひとつです。なお、新潟と聞くと雪国をイメージされる方も多いかと思いますが、新潟市は海沿いのため雪はほとんど積りませんので、安心してください。



写真提供：(株)新潟観光コンベンション協会

Q 大学はどんなところに
ありますか？

A 新潟駅からバスで15分の位置にある旭町キャンパスは、新潟一の繁華街である古町や市役所といった重要施設まで徒歩で数分という最高の立地条件にあります。

Q お昼ご飯は
どうしていますか？

A 大学構内や周辺には多数の食堂、料理店がありますので、みんな好みの店を探し出して通っています。もちろんコンビニや売店でお弁当を買ってきて講義室で食べることもできます。毎日お弁当を作ってくるマメな学生もいますよ。

Q 生活費が
心配です

A 一人暮らしにはそれなりのお金がかかります。しかし、住居費や物価は首都圏ほどではありません。アパートの家賃の相場は4~6万円くらいです。アルバイトをすることも可能ですし、県や日本学生支援機構による奨学金を入学後に申請することもできるので考えてみてはどうでしょう。

Q アルバイトについて
教えてください

A 家庭教師、塾講師からコンビニ、レストランの店員まで、様々なアルバイトがあります。自力で探すこともできますが、部活の先輩やクラスメイトから紹介してもらうことも多いです。2年生以降は講義がびっしりあるので、アルバイトは夕方以降になる場合がほとんどです。住み込みのアルバイトや昼休みにちょっと行ってくるといった変わりダネもあるので、いろいろ探してみてもいいですよ。

Q 医学書って
高いんですね？

A 確かに1冊5千円から1万円以上する本も多いです。必要な本を全て買いそろえるのは難しいかもしれません。でも、学生には10%引きで売ってくれるお店もありますし、図書館には必要な本がほとんど揃っていますので借りてみることも可能です。

Q 医学部では勉強が大変で他のことが
何もできないんじゃないですか？

A そんなことはありません。学生の多くが部活動を行っていますし、様々なアルバイトやイベント、もちろん飲み会にも参加しています。新潟大学には医歯学祭や運動会、クラスマッチといった豊富な年間行事もありますので、それを楽しみにしている学生も多いのです。しっかり大学生らしい生活を楽しんでいますよ。でも未成年の飲酒はしないでくださいね。

行事
については
15
ページへ

部活動
については
17・18
ページへ

Q 人体解剖とか血を見たりとか、
少し怖いんだけど……

A 確かに最初はそうかもしれません。でも、実習が進むにつれ段々と慣れていきます。むしろ、解剖実習の後で医者になるという実感や心構えを得ることができたという人が多いですし、手術見学を貴重なチャンスと覚えてくるのが一般的です。

Q 新潟大学医学部の
特色はなんですか？

A 新潟大学は研究活動が盛んな大学で、低学年から研究室に出入りして論文を書く学生もいます。また海外留学が盛んで、イギリス、中国、インドネシア、タイの医学部に10日程度から3か月まで様々な留学プログラムがあります。語学研修も充実しています。もちろん、地域医療貢献のための臨床実習も充実しています。

Q 部活やサークルには
必ず所属しなければ
ならないのですか？

A 部活やサークルに必ず所属しなければならないという決まりはありませんが、同じ学年の友達だけでなく、他学年の先輩や後輩と交流することのできる良い場となっているため、所属することをおすすめします。いろんな種類の運動部、文化部、同好会があるので、ぜひ自分に合う部活を探してみてもいいですよ。

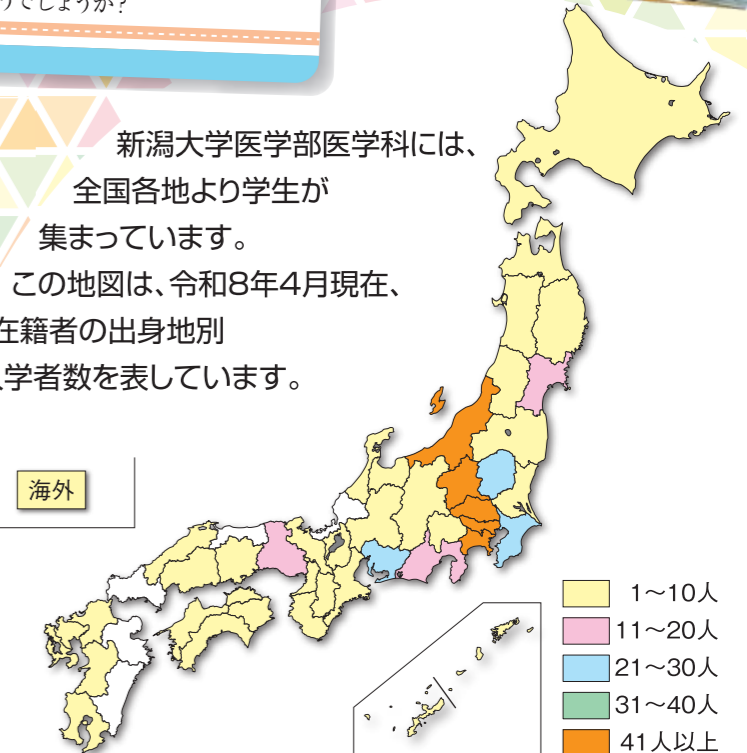


Q とにかく漠然と不安なだけで、
誰に相談したらいいんだろう？

A 大学に入った後でも漠然と不安を感じている人は多いようです。まずはクラスメイトや部活の先輩に相談してみてもいいですよ。また、懇話会という1年生から6年生までの学生数名ずつと教授1~2名で構成された会もありますので、そこで様々な話をすることもできます。それとは別に「旭町キャンパス医学生支援相談ルーム」や「医学教育センター」もありますので、気軽に訪れて悩み事を相談してください。

サポート
については
10
ページへ

新潟大学医学部医学科には、全国各地より学生が集まっています。この地図は、令和8年4月現在、在籍者の出身地別入学者数を表しています。



旭町キャンパス案内

新潟大学には2つのキャンパスがあり、1年次は、主に五十嵐キャンパス、2年次以降は旭町キャンパスで学びます。旭町キャンパスは、新潟市の中心部にあり、設備も充実しています。

A 赤門(旧制新潟医学専門学校の正門)



大正3(1914)年に建てられた由緒あるレンガ造りの正門で、登録有形文化財に指定されています。優雅で歴史を感じるので記念撮影に利用する人も多くいます。

B 新潟医療人育成センター



赤門の奥にある建物で、高度のシミュレータや260名収容のホールがあります。

C 医学部研究棟



1~7階に各分野の研究室が入っています。2階は病院との渡り廊下でつながれ、人の往来が頻繁です。

D 東・西講義棟

4つの講義室があり、各学年の講義が行われています。

E 学生実習棟

4つの実習室があり、基礎医学系科目の実習が行われています。

F 大講義室



講義だけでなく、いろいろなイベント会場としても利用されます。

G メディカルAIセンター (ライフイノベーションハブ棟内)



医療画像を応用した人工知能の開発や精密医療を実現するためのゲノムデータ解析が行われています。

J 医歯学総合病院(診療棟+病棟)



外来診療棟にはドクターヘリのためのヘリポートもあります。入り口右手には新潟駅からの路線バスの停留場があり、アメニティモールには、コンビニ、カフェ、レストランなどが併設されています。奥に見える病棟の最上階から眺める景色は絶景で、市街とともに日本海が見渡せます。

L 医歯学図書館(旭町分館)



五十嵐キャンパスの本館と異なり、医学専門書が多くあります。歯学部、保健学科の学生も利用します。

M "脳といのち"のイノベーションハブ(BIH)



本学の強みであるヒト脳資源・ヒト脳疾患病態研究を、学内関連分野・参画機関と戦略的連携強化し、ヘルス・ライフサイエンス分野におけるイノベーション創出に資するための複合型産学官連携施設です。

N 有壬記念館(学生会館)



創立75周年を記念して同窓会の寄附により建てられました。同窓会関連のイベント会場として利用されます。

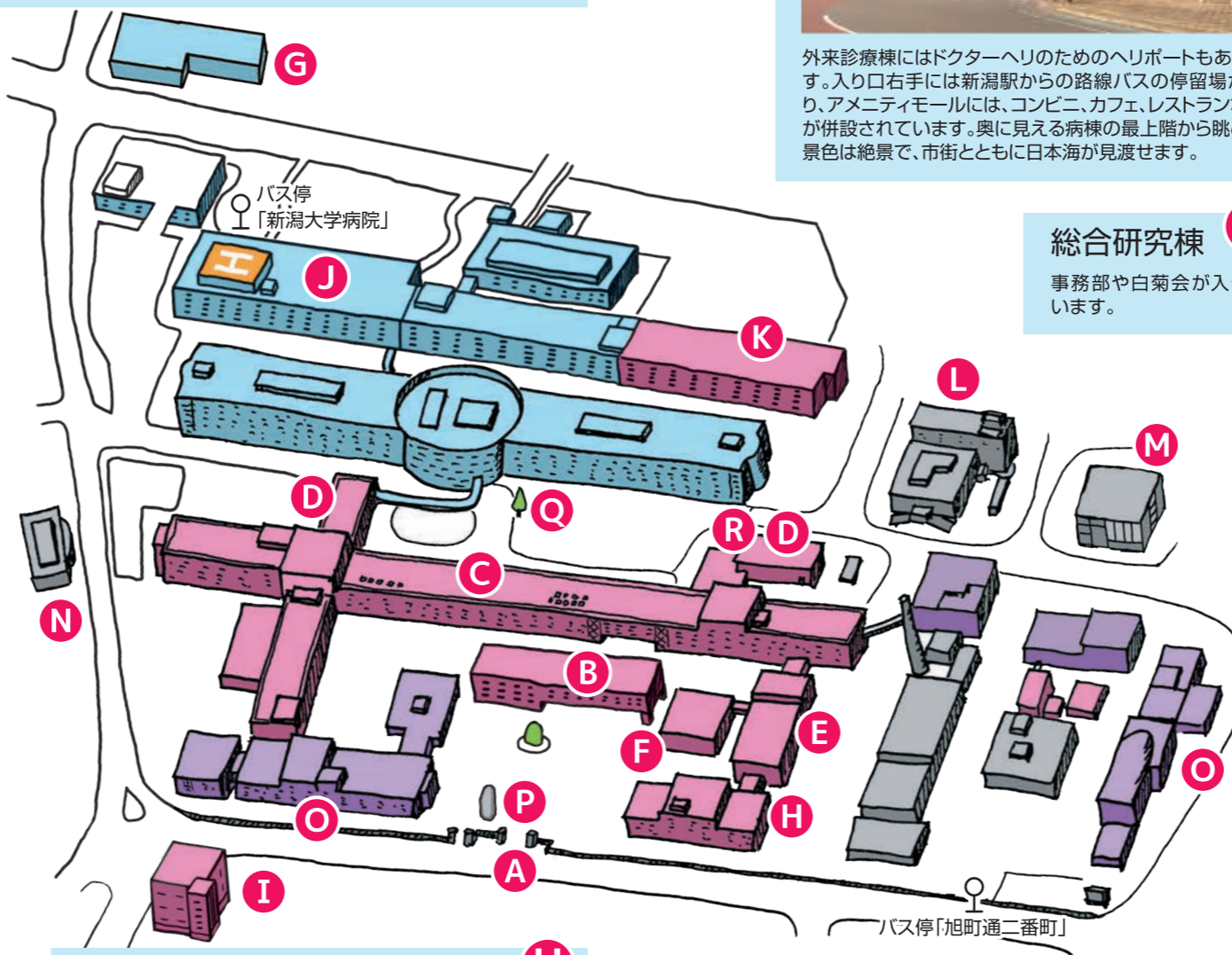
O 脳研究所



全国で唯一、ヒトの脳専門の研究所です。外国からの留学生も多く、夏には夏期セミナーが開かれ、全国各地から学生や研究者が多数集まります。

P 句碑

新潟大学名誉教授、脳研究所初代施設長で、俳人でもあった中田瑞穂先生の「学問の静かに雪の降るは好き」の句碑があります。



K 総合研究棟

事務局や白菊会が入っています。

H 共同研究棟 (新潟大学医学科研究推進センター)



様々な大型機器(顕微鏡、質量分析、セルソーターなど)の保全・管理と、これらを利用した研究支援サービスを提供しています。1階に第5講義室と学生が自由に使える多目的スペースがあります。

Q ヒポクラテスの木



I 旭町サークル共用施設

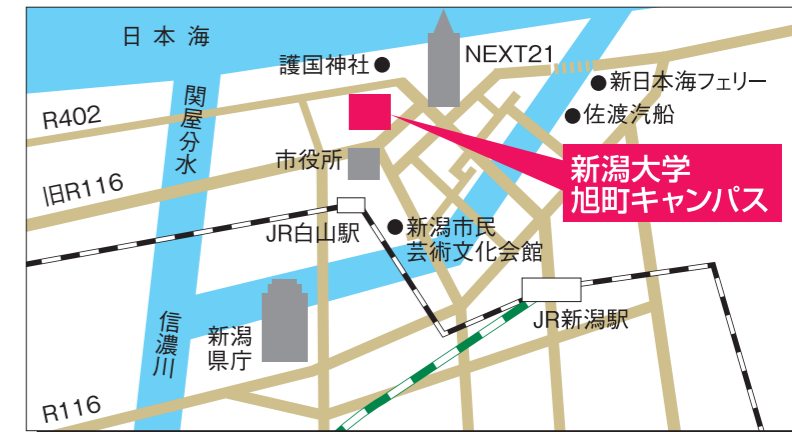


(体育館・武道場) 学生の部活動やサークル活動で使用されます。新しい建物で、設備も充実しています。

R ヒストリーギャラリー



新潟大学医学部医学科の歩みを展示しています。



JR新潟駅から医学部医学科まで

- 《バス》新潟駅バスターミナルより新潟交通バスに乗り
 ●9番のりばよりC2浜浦町線に乗り、「旭町通二番町」下車(所要時間15~20分)バス停より徒歩約3分
 ●B1萬代橋ライン(6番のりば、W2西小針線(7番のりば)、W1有明線(8番のりば)に乗り、「市役所前」下車(所要時間10~15分)バス停より徒歩約8分
 ●1番のりばよりC8新大病院線に乗り、「新潟大学病院」下車(所要時間15~20分)バス停より徒歩約5分
 《タクシー》JR新潟駅万代口より10~15分